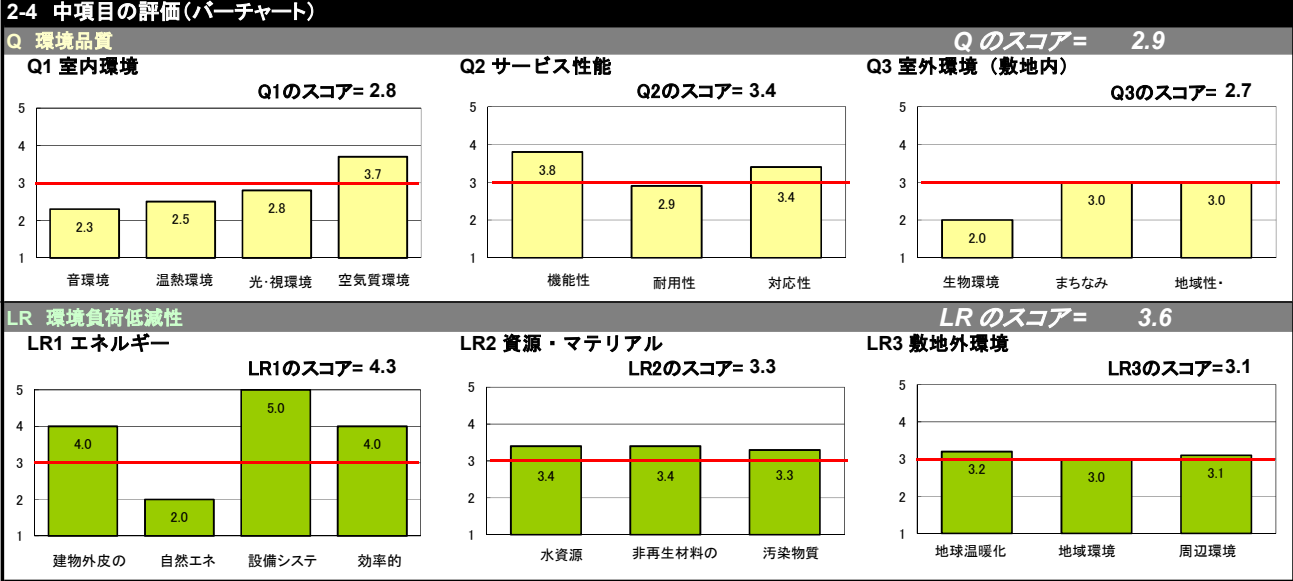
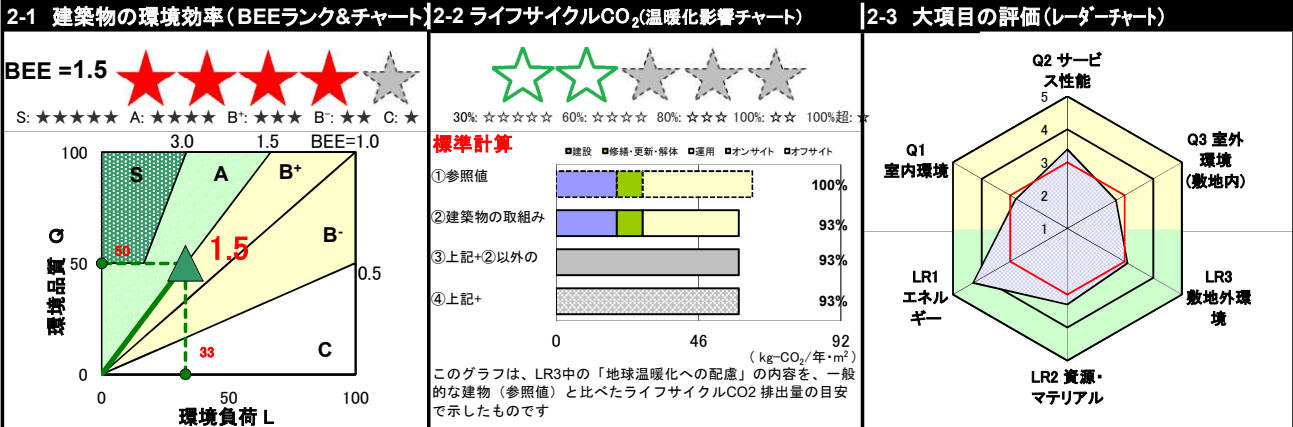


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	JX金属製鉄株式会社佐賀製鉄所社員寮新築工事	階数		
建設地	大分県大分市	構造		
用途地域	準都市計画区域内,土砂災害警戒区域	平均居住人員		
地域区分	7地域	年間使用時間		
建物用途	集合住宅,	評価の段階		
竣工年	2024年1月 竣工	評価の実施日		
敷地面積	9,653 m ²	作成者		
建築面積	828 m ²	確認日	2023年8月26日	
延床面積	4,729 m ²	確認者	大石 隆誠	



3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
・周辺環境に配慮した計画。 ・アースカラーを使用した外観計画。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
・十分な開口の確保。 ・Low-E複層ガラスの採用。	・BCP対策の実施。 ・防災拠点としての機能確保。 ・バリアフリー室の確保。	・既存緑地の保存及び新設緑地の計画。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・太陽光パネルの設置。 ・人感センサーの設置	・節水型便器を設置している。	・ライフサイクルCO ₂ の削減。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
JX金属製錬株式会社佐賀製錬所社員寮新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		環境配慮設計の概要記入欄				全体	
配慮項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質							2.9
Q1 室内環境			0.40		-		2.8
1 音環境		3.0	0.15	1.7	1.00		2.3
1.1 室内騒音レベル	—	1.0	0.50	1.0	0.50		
1.2 遮音		5.0	0.50	2.5	0.50		
1 開口部遮音性能	T-2等級	5.0	1.00	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能	—	-	-	2.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—	-	-	1.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	—	-	-	1.0	0.20		
1.3 吸音	—	-	-	-	-		
2 温熱環境		2.6	0.35	2.4	1.00		2.5
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.3	0.50		
1 室温	—	3.0	0.63	3.0	0.63		
2 外皮性能	住居部: 等級4 断熱材にて屋根・外壁・床の熱の侵入に対して配慮	3.0	0.38	4.0	0.38		
3 ゾーン別制御性	—	-	-	-	-		
2.2 湿度制御	—	1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式	—	3.0	0.30	2.0	0.30		
3 光・視環境		2.5	0.25	3.1	1.00		2.8
3.1 昼光利用		4.2	0.30	3.4	0.30		
1 昼光率	昼光率 共用部2.5%以上、住居部:2.0%以上	5.0	0.60	5.0	0.50		
2 方位別開口	—	-	-	1.0	0.30		
3 昼光利用設備	—	3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策		3.0	0.30	4.0	0.30		
1 昼光制御	共用部:ブラインド、住居部:カーテン・庇を採用	3.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度	—	1.0	0.15	1.0	0.15		
3.4 照明制御	—	1.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境		3.6	0.25	3.8	1.00		3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63		
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆ ホルムアルデヒド、VOCの放散量が少ない	4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気		3.0	0.40	3.6	0.38		
1 換気量	—	3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能	1/6以上を確保	-	-	5.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮	汚染源のない方位に設けられており、3m以上はなれている。	3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理		-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視	—	-	-	-	-		
2 喫煙の制御	—	-	-	-	-		
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-		3.4
1 機能性		3.6	0.40	4.0	1.00		3.8
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性	—	-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応	1Gbit以上の環境を整備予定	-	-	5.0	1.00		
3 バリアフリー計画	—	3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性		5.0	0.30	2.5	0.40		
1 広さ感・景観	天井高2.6m以上	-	-	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース	—	-	-	-	-		
3 内装計画	1.大分県産の杉材を用いて木ルーパーとして一部壁面をデザインします。 2.共用部に県産木材を利用するため、それに合わせてカフェラウンジや図書スペース・食堂にも木目を意識した内装とし、寮生にとって暖かみのある憩いの場となるようにしています。 3.基本的に照明は昼白色を採用していますが、図書スペースについては、少し落ち着いた空間とするために、他の室に比べて照度を落とした計画としています。 4.寮室のモックアップ(モデルルーム)を実施。また、BIMを用いて3D	5.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計	—	3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保	—	3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-		2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	—	3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能	—	3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		2.9	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数	住宅の品質確保の促進に関する法律で等級1相当	3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	官庁官繕より15年(フッ素樹脂吹付タイル)	2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ビニルクロス貼 合板・LGS下地	4.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	—	3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	—	3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔	—	3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性		2.8	0.20	-	-		
1 空調・換気設備	—	3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備	系統も可能な限り区分、受水槽に蛇口設置	3.0	0.20	-	-		
3 電気設備	—	3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法	—	3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備	—	2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.8	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり			-	-	4.6	0.50	
1	階高のゆとり	階高3.0m以上	-	-	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.21	-	-	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
1800N/㎡以上			-	-	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	空配管あり	3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			-	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
周辺の各視点場からの視認性を配慮し、建物の外観については、景観に溶け込むように、ホワイトやアースカラーを基調とした計画としている			3.0	0.40	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.30	-	-	3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
-			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	0.20	-	-	4.0
5-1断熱等性能等級4相当			4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			2.0	0.10	-	-	2.0
-			2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化			5.0	0.50	-	-	5.0
BEI値:0.87			5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
-			4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-	
集合住宅の評価			4.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	エネルギーを管理する仕組みがあり、それにより消費エネルギーの削減が可能である取組みがなされている。	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	住まい手に省エネに関する一般的な説明をする	4.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-	
LGS・置床を採用			5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	アクアフォーム0を採用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒	CO2冷媒冷凍機	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
ライフサイクルCO2:93%			3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪場。駐車場。荷捌き車両 確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音	-	3.0	1.00	-	-	
2	振動	-	-	-	-	-	
3	悪臭	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制	-	1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	日影規制なし	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告照明無し、光害対策を一部満たしている	4.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

JX金属製錬株式会社佐賀製錬所社員寮新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	-	○	○	○	○	-	-	-	-					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0		-	○	-		○	-	-	-	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0	-	-	○	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	-	○	-	-	-	-	○						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	6.0		-	2.0	2.0	-	-	-	-	1.0	-	1.0	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	-	1.0	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	1.0	-	-	-	1.0	-						
3.2 敷地内温熱環境の向上	11.0		-	3.0	1.0	3.0	-	-	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-									
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0		1.0	-	-	-	3.0	-	-	2.0	-	-			
2.3.3 交通負荷抑制	3.0		1.0	-	1.0	1.0	-	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		-	1.0	1.0	-		1.0	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.5	窓の日射熱取得率(η) -							
U値(W/m2K)		窓システム	4.0	屋根	1.1	外壁	0.7	床	0.5
住戸部分		窓システムU値	3.6	外皮UA値	0.7	η AC	1.2	η AH	0.3
昼光率	1.5%								
自然換気有効開口面積率	0.0%								

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	6.0㎡ / 人	病床	8.0㎡ / 床	シングル	15.0㎡ ツイン	22.0㎡
コンセント容量	30.0 VA/ ㎡					
天井高	2.6 m					
リフレッシュスペース	0.5%	レストスペース	2.0%			
想定耐用年数	25 年					
想定必要間隔	15 年					
想定必要間隔	20 年					
想定必要間隔	0 年					
階高	3.2 m					
壁長さ比率	12.7%					
床荷重	1800 N/m2					

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	35%	建物緑化指数	0%												
空地率	91%	水平投影面積率	10%	地表面対策面積率	37%	舗装面積率	69%								

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	-	断熱等性能等級	等級4 相当												
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	80.0%	採光を満たす住戸数	80.0%										
				通風を満たす教室数	80.0%	通風を満たす住戸数	80.0%								
BPI/BPI _m	非住宅	-	住宅	-	太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW					

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%				
特定調達品目	フロアタイル	エコマーク商品	ビニル床シート	自治体指定の特定品目等	-
使用比率	5.0%				
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)			
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)		1	
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)		8	

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	#DIV/0!	隣棟間隔指標R _w -													
地表面対策面積率	52.0%	屋根面対策面積率	#DIV/0!	外壁面対策面積率	#DIV/0!										
見付面積S _b	㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	0 m	基準高さH _b	0 m										
緑地	2,150㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡	再帰性反射対策面	㎡						